

運転に必要な装置の取扱い

1. ベール直径、密度の取扱い

◆ベール密度の設定

ベール密度は、コントロールボックスで設定します。

乾草の場合は、設定圧力を低めに設定し、ソフトコアを使用することをお勧めします。短い乾草でつまりが発生するときは、設定圧力を落としてみてください。

ベール固さは8の設定が標準です。

必要に応じて、サイレージの場合は設定値を高く、乾草の場合は設定値を低くしてください。

◆ベール直径設定

設定範囲 サイレージ:80~155

乾草 :80~160

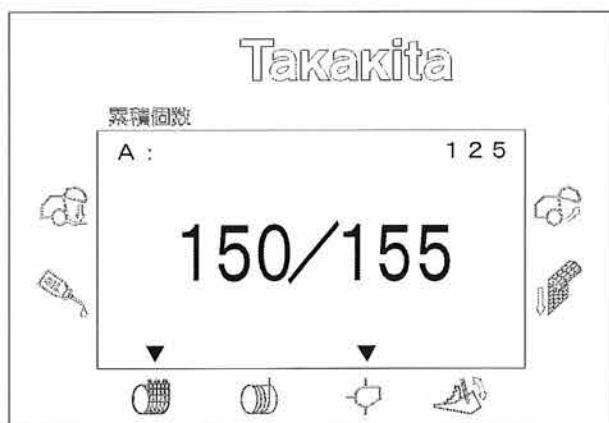
注意

サイレージの時は、最大ベール重量が1000kg以下になるように設定してください。

2. 累積表示の取扱い

ベールの放出ごとにカウントします。

コントロールボックスのディスプレイに表示されます。ネットを繰出し、ベールを放出する(リヤチャンバを開けたとき)ごとにカウントし、完成ベールの数を表示します。(リヤチャンバを開けただけではカウントされません。)



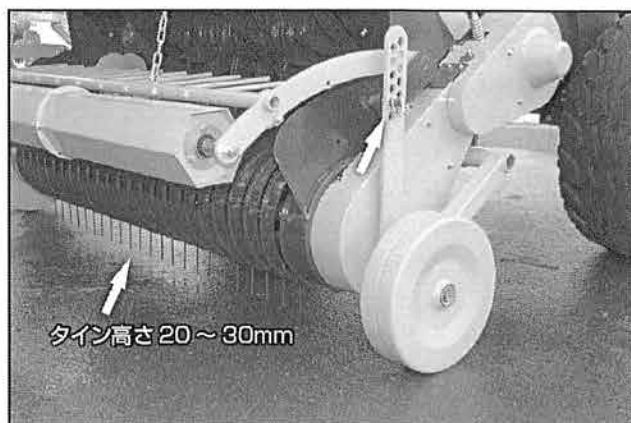
3. ピックアップドラムの高さ調整

拾い上げ高さの調整は左右のゲージホイールによって行います。

トラクタの油圧を操作しピックアップドラムを上げピックアップ高さ調整プレートの穴位置を変えて、高さを合わせてください。

左右のホイールは同じ高さに調節してください。

ピックアップドラムの拾い上げ高さは、ピックアップタインが地面から約20~30mm程度の高さが標準ですが、ほ場の状態に合わせて調整してください。

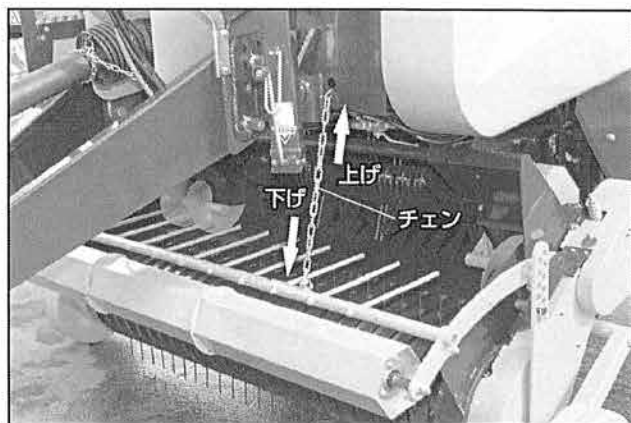


4. グラスプレスローラの高さ調整

グラスプレスローラがウインドローに軽く触れるぐらいに調整してください。

グラスプレスローラの高さ調整は、チェーンの長さによって調整が出来ます。

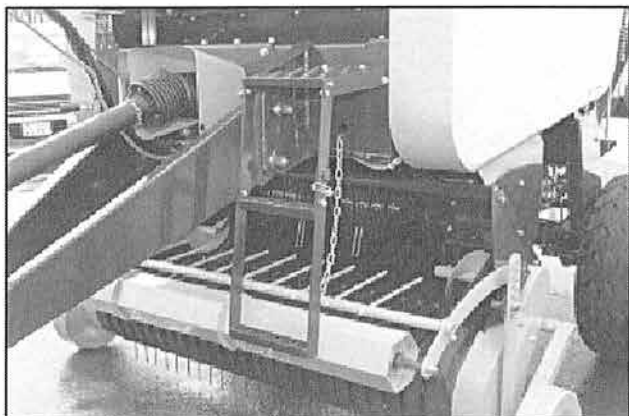
左右のチェーンは同じ長さになるように調整してください。



運転に必要な装置の取扱い

5.ステップの取扱い

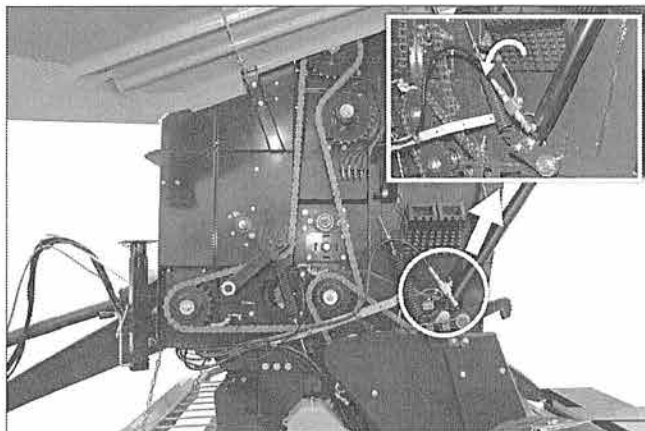
トワインの装填時などは、ステップを下げて本機に上がってください。



6.リヤチャンバの下降防止

◆油圧シリンダをロックし、下降防止をする

点検・整備・清掃などでチャンバを開けたままで作業するときは、必ず左シリンダのストップバルブレバーを開の方向に回してシリンダをロックします。



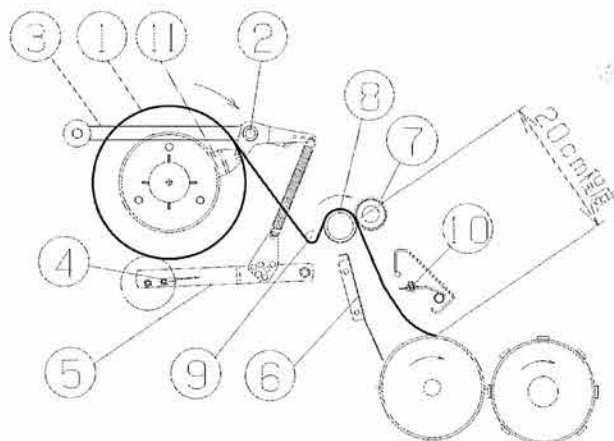
注意

- ・再びチャンバの開閉をする時は、必ず左シリンダのストップバルブを開の方向にしてください。
- ・チャンバを開けた状態でストップバルブを閉から開に切替えた時、少しチャンバが下がる事があるので注意してください。

7.ネットの取付けと通し方

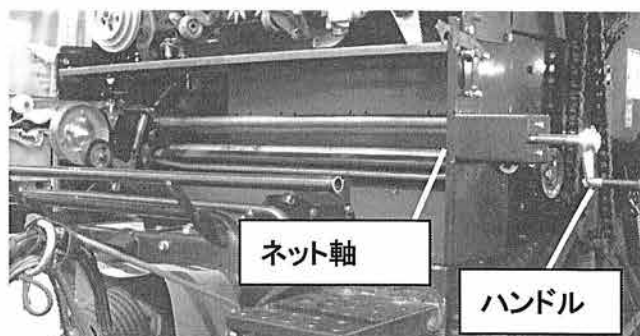
ネットは下図のように通してください。

ネットの先端は、ゴムローラより約20cm垂れ下げてください。



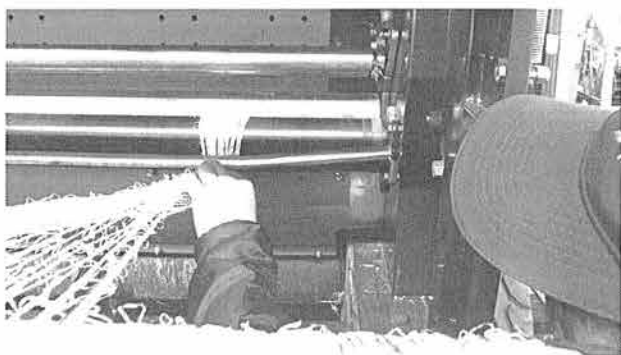
- | | |
|-------------|-------------|
| 1. ネット | 2. ブレーキアーム軸 |
| 3. ブレーキアーム | 4. ネット回転センサ |
| 5. テンションアーム | 6. スベリ板 |
| 7. ローラ | 8. ゴムローラ |
| 9. ネット広げ | 10. ナイフ |
| | 11. ブレーキパッド |

(1) ハンドルを反時計回りに回し、ネット軸を機体外側一杯に移動させます。

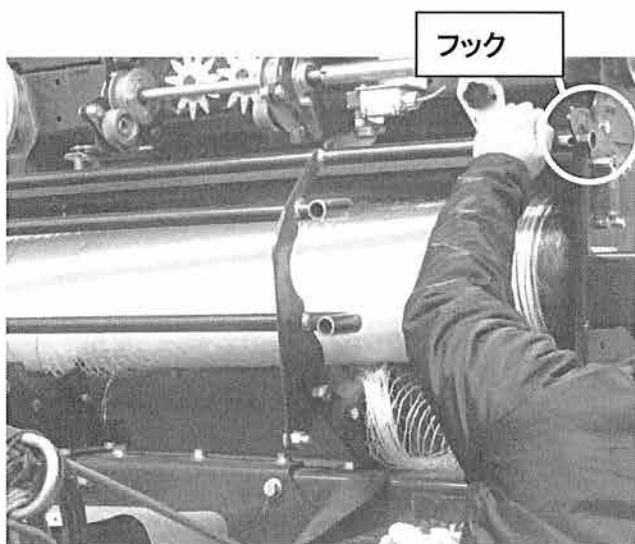


運転に必要な装置の取扱い

(2) ネット台にネットを乗せ、ネット端を引出しネットをローラ間に通します。



(3) ネット台の端を手でゆっくりと持ち上げ、ネットをネット挿入位置へ転がします。
その際、フックが掛かるまで、ネット台を上げ切ってください



メモ

・ネット台がフックにかかった状態では、ネットブレーキが解除された状態になります。

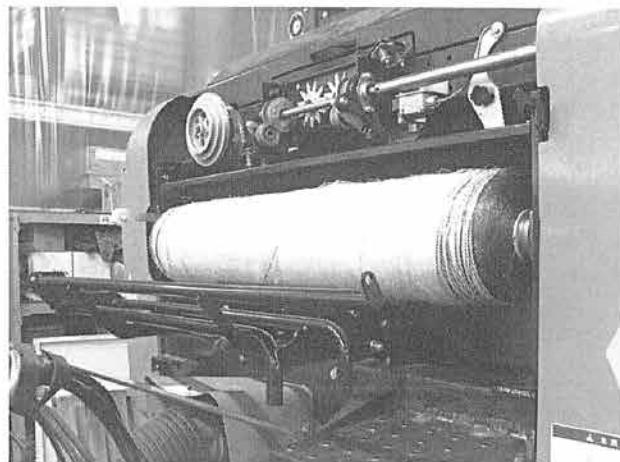
(4) ハンドルを時計回りに回し、ネット軸にて押し込んで下さい。ネットがネットブレーキ軸に押し付けられ、ハンドルが重くなったところからさらに半回転押し込みます。必要に応じハンドルがメインカバーと干渉しない位置までハンドルを時計回りに回し、ハンドルをたたんでください。



(5) 手でネットを回し、ネットのたるみを解消してください。(ネット台がフックにかかった状態)



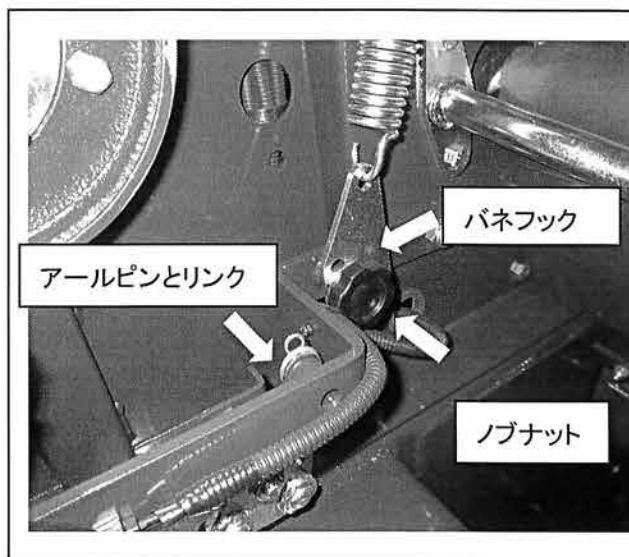
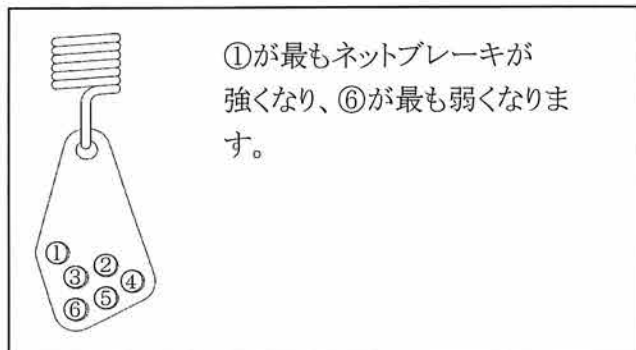
(6) フックを解除しネット台を戻してください。



運転に必要な装置の取扱い

◆ネットのブレーキ力調整方法

写真のアールピンを抜いてリンクを外し、ノブナットを外してバネフックの穴位置を変更することでネットのブレーキ力を調整できます。

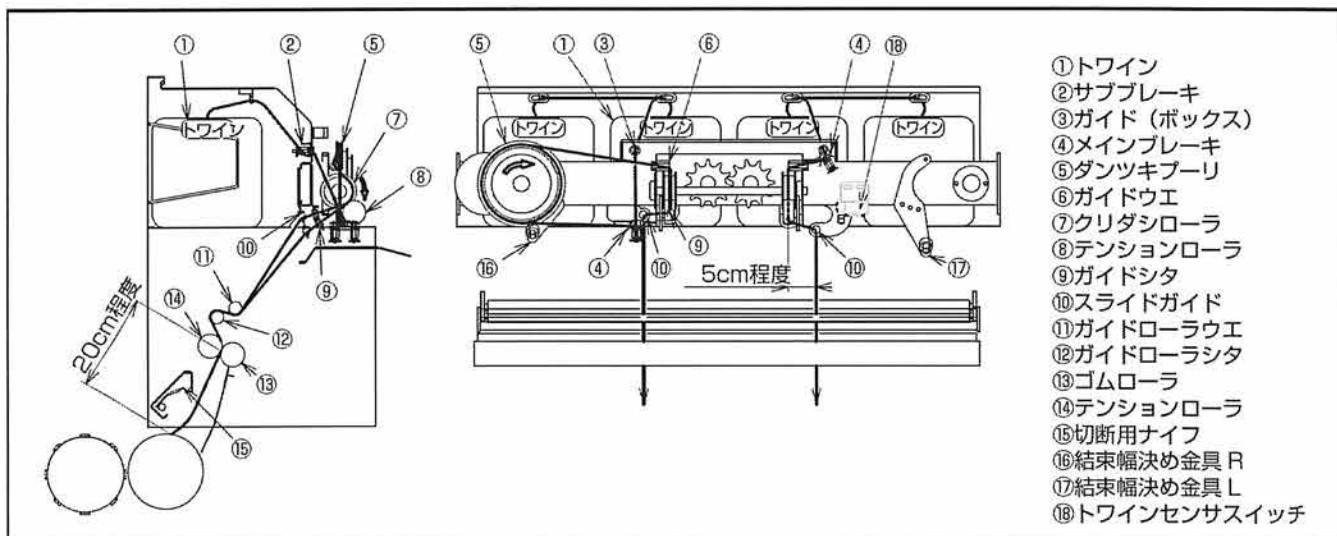


8. トワイン装置の取扱い(オプション)

◆トワインは下図のように通してください。

トワインの先端は、ゴムローラより20cm程度垂れ下げてください。

トワインブレーキのアジャストナットの調整で、トワインの巻付強さが変えられます。



※ナイフがすぐ近くにあるので十分注意してください。

(1) トワインボックスにセット

上図のようにトワインをボックスにセットし、2個のトワインを結んでください。

(2) 2ヶ所のブレーキに通す

上図に示すように、サブブレーキを通し、ガイドを通してメインブレーキに通してください。

※トワインブレーキのアジャストナットを調整することにより、トワインの巻付け強さが変えられます。

(3) 段付きプリーへ巻付ける

続いてメインブレーキより出たトワインを、段付きプリーに1回巻付けてください。

片方のトワインのみ時計方向に巻付けてください。

(4) 繰り出しローラに通す

段付きプリーに巻付け後、ガイドウエに通し繰り出しローラの間から出しガイドシタの穴を通す。次にスライドガイドに通してから、ゴムローラ上の丸棒2本を通してゴムローラとクリダシローラ間を通し20cm程度トワインが出るようにセットしてください。

運転に必要な装置の取扱い

◆トワイン案内金具はスタート位置にする

ダンツキプーリを時計回りに回転させるとスライドガイドが内側に進む状態で、スライドガイドがクリダシローラより5cm 程度の位置になるようセットしてください。

(⑩スライドガイドが⑮トワインセンサスイッチよりも内側になるように)

注意

・案内金具をスタート位置にセットしなかったときは、下記の現象が発生します。

※トワインの巻が少なくロールがほぐれる。

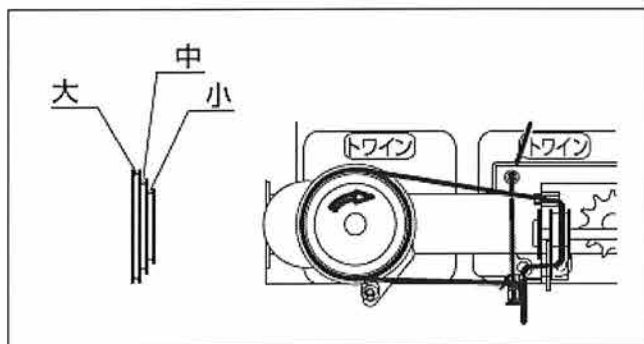
※通常より多く巻いてしまう。

◆結束幅の調整

結束幅決め金具を外し、ローラを内側の穴にセットすると、結束幅が狭くなり、外側にセットすると広がります。

9. トワイン巻付けピッチの調整

成形したバールの外周に巻付けるピッチの調整は、段付きロールの径(大,中,小)によって行います。



段付ロール 巻付位置	使用量 (m)	巻付けピッチ (mm)
		VC1600 バール径φ155cm 時
大 (狭い)	108	104
中 (中間)	89	126
小 (広い)	72	160

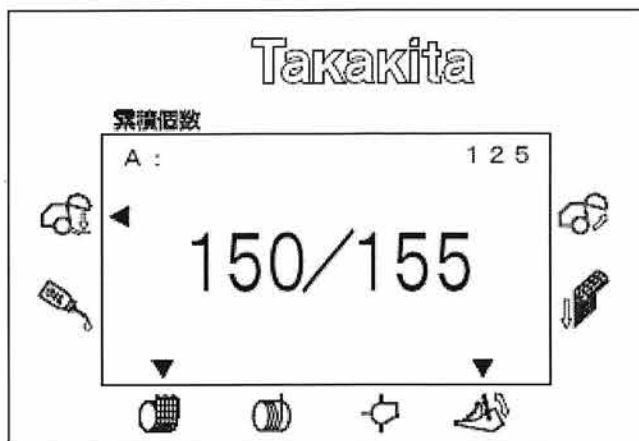
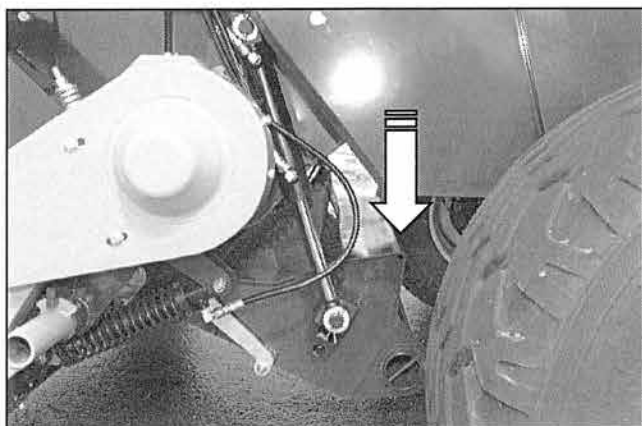
運転に必要な装置の取扱い

10. ナイフホルダ開閉の方法

カッティングドラム部の草詰りを、トラクタに乗ったまま解除する事が出来ます。

◆草詰まりの解除方法

- ①草詰まりのためジョイントクラッチが働き回転停止した場合、すぐにトラクタの走行及び PTO を停止させてください。
- ②トラクタを少し後進させ、集草列から離れてください。
- ③トラクタのナイフホルダ側油圧レバーを操作し、ナイフホルダを完全に下げてください。下がっている場合は、コントロールボックスの液晶に「ナイフホルダが降りています」と表示されます。

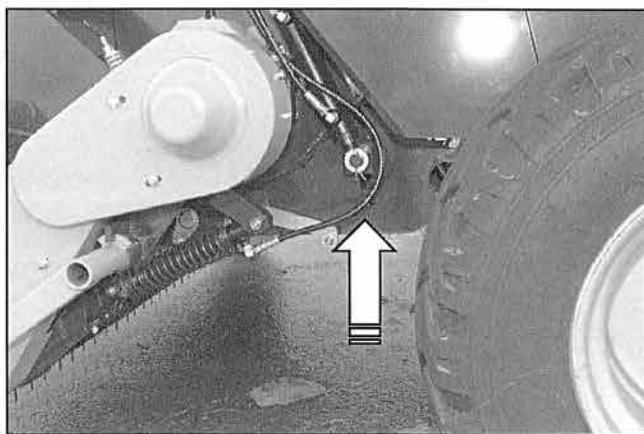


オプションで電磁バルブが取り付けられているときには、ピックアップ／ナイフホルダ切替えスイッチで油圧管路を切替え、ナイフホルダを上下させることができます。

- ④トラクタの PTO を低速で接続してください。

1度で解除できない場合は、数回 PTO を断続することで解除できます。

- ⑤PTO を回しながら、油圧レバーを操作してナイフホルダを完全に上げてください。コントロールボックスの「ナイフホルダが降りています」表示が消灯したことを確認します。



オプションバルブが付いている場合はコントロールボックスの設定をピックにもどしてください。

注意

- ・ナイフホルダ部に草のはさみつけが起こらないよう、必ずPTOを回しながらナイフホルダを上げてください。

運転に必要な装置の取扱い

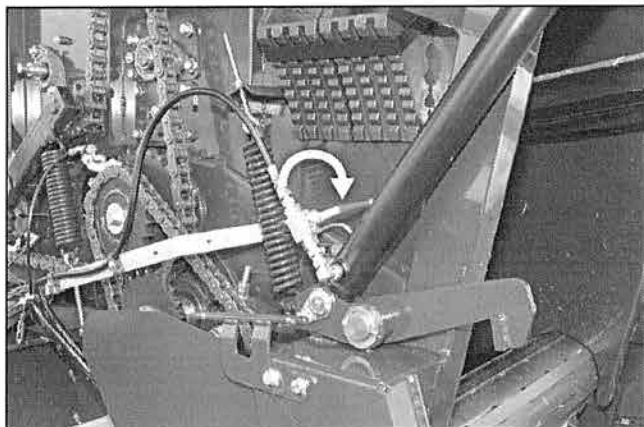
11. 切断ナイフの取外し、取付け

ナイフの取外し、取付けは以下の場合に行います。

- ・切断長調整の為、ナイフをダミーナイフに交換する場合。
- ・点検整備の為、ナイフを交換、研磨する場合。

◆切断ナイフの取外し

(1) リアチャンバを完全に開け、シリンダストップバルブを「ロック」にしてください。



(2) 本機左前方にある、チャンバ・ナイフフリー油圧切替バルブを操作し、ナイフフリー側に切り替え、トラクタの油圧レバーを操作してナイフフリーシリンダを完全に伸ばしてください。



(3) ナイフホルダー左側にあるナイフ固定レバーのボルトを外し、レバーを約90度回転させてください。



(4) チャンバ内からナイフの後端を引き上げ、斜め後方に引き抜いてください。



注意

ナイフホルダ部の草詰りでナイフが下がらない場合は、ナイフを外してホルダの溝の草詰りを取除いてください。

ナイフを取り外すときは必ず軍手を着用して行ってください。

メモ

・手順(2)のナイフフリーシリンダを伸ばした状態で、チャンバ・ナイフフリー油圧切り替えバルブを操作し、チャンバ側に切り替えることで、簡易的にナイフを下げた状態で作業が行えます。

しかし、ナイフは完全には下がりませんので、無切断にする場合はナイフを外し、ダミーナイフを使用してください。

運転に必要な装置の取扱い

◆切断ナイフの取付け

- (1) ナイフを抜いた時と同じように、斜め方向から差込んでください。



注意

ナイフが完全に入っていることを確認してください。ナイフの先端が写真よりもでている場合は完全に入っていないので、もう一度奥まで差込んでください。

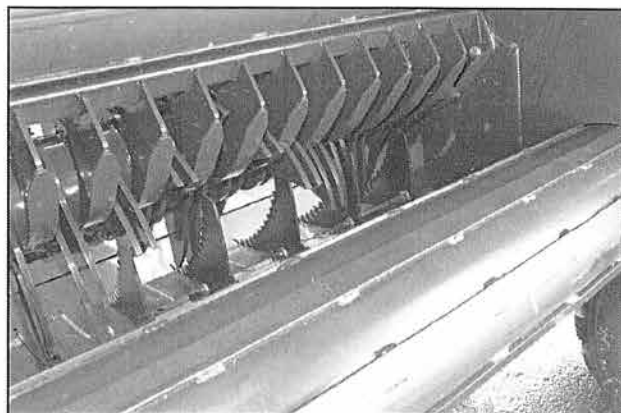
取扱い時は軍手等を着用して作業を行ってください。

- (2) ナイフ固定レバーを90度回転させて元に戻し、ボルト及びナットで固定してください。



- (3) トラクタの油圧レバーを操作してナイフフリーシリンダを完全に縮めてください。

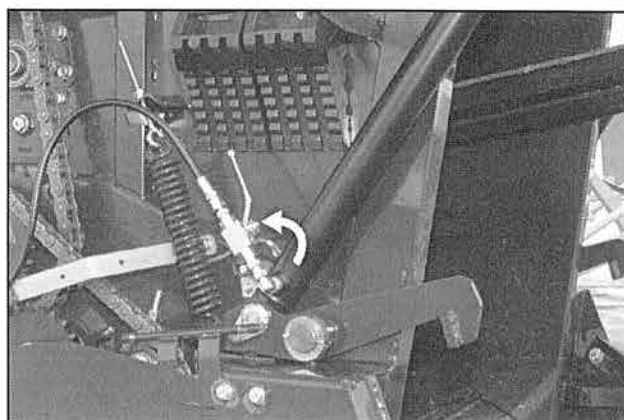
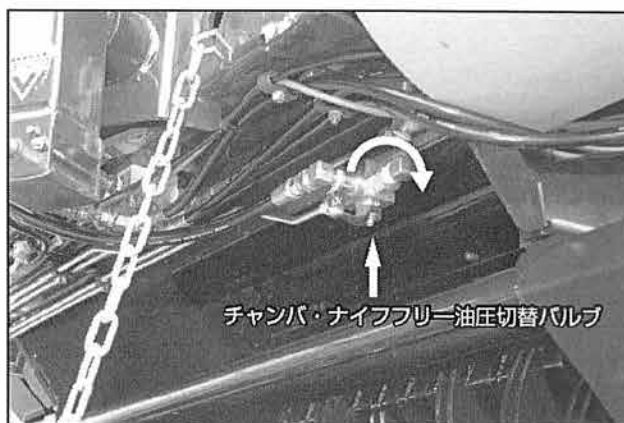
- (4) ナイフがセットした切断長の状態になっているか確認してください。出ていない時はハンマ等でナイフを軽くたたいて下さい。



注意

ナイフホルダ部の草詰りでナイフが上がらない場合は、ナイフを外してホルダの溝の草詰りを取除いてください。

- (5) チャンバ・ナイフフリー油圧切替バルブを操作し、チャンバ側に切り替え、リヤチャンバのシリンダストップバルブを「開」にし、トラクタの油圧レバーを操作してリヤチャンバを閉じてください。



運転に必要な装置の取扱い

12. 切断長の調整

◆ 切断長の変更

切断長は、ナイフをダミーナイフに交換して調整してください。



◆ 理論切断長

- ・ナイフ枚数13枚
76mm(両端133mm)
- ・ナイフ枚数7枚(一枚置き)
152mm(両端133mm)
- ・ナイフ枚数6枚(一枚置き)
152mm(両端209mm)

13. 切断ナイフの手入れ

◆ 切断ナイフの手入れ

切断ナイフは、特殊鋼の全面焼入れで減りにくくなっていますが、定期的に研磨しないと切れ味が悪くなり、所要馬力も高くなります。

稲わら作業の場合、少なくとも150ロールに1回、牧草の場合は500ロールに1回程度の研磨をおすすめします。条件によってはさらに少ない作業個数での研磨が必要になります。

◆ 切断ナイフの研磨

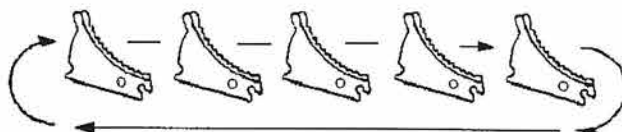
平らな面を仕上用のディスクホイルで徐々に削ってください。

1回の削り量が多いと、発熱により焼きが戻り、ナイフの減りが極端に早くなります。

複数のナイフをローテーションしながら少しずつ削ると、発熱が少なくなり良好な研磨が行えます。



ローテーション研磨で発熱を押さえる



作業方法

1. 作業手順と要点

作業前に

- 各部の給油をし、ならし運転をする

準備

トラクタへの装着

ドローバへの装着と調整
スタンドの操作
ユニバーサルジョイントの取付け
油圧ホースの接続
コントロールボックスの取付け

各部の調整と操作

切断長の調整
ピックアップドラムの高さ調整
コントロールボックスの取扱い

ネットのセット

ネット・トワインのセット

作業

リヤチャンバを閉じる

コントロールボックスの「作業OK」
ランプの点灯確認

PTOを入れて走行する
回転速度 $540\text{min}^{-1}(\text{rpm})$

チャンバの左右に均等に草が入るように
走行する

ブザーが『ピッピッピッ…』と鳴る

ベールが設定径に近づいている

ブザーが『ピ・————』と鳴ったら
走行を停止する

ベールが設定径に到達しカムが回転
ネット・トワインが繰り出る

ネット・トワインの切断を確認

傾斜地ではロールが転がらない場所へ
移動する

リヤチャンバを開く

ベールの放出

キッカー降警告が出ないか確認

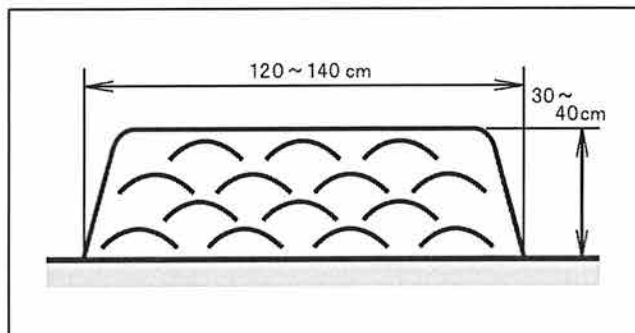
チャンバ開の後、キッカー降警告が
出ないかを確認する

作業方法

2. 作物の拾い上げ

◆ウインドローの作りかた

均一なウインドローを作ってから拾い上げてください。ウインドローの大きさは、下図のようにしてください。



注意

ウインドローの草量が多いと詰りの原因となります。能率的な作業をするためにも、上記寸法のウインドローを作ってください。

ツインレーキで上記サイズのウインドローを作る事で、形状の綺麗なバールが能率的に成形できます。

集草はツインレーキで行う事をおすすめします。

◆ウインドロー拾い上げの作業速度

作業速度は、牧草の種類や水分量、ウインドローの草量などによって異なりますが、下記を目安に走行してください。

摘 要	作 業 速 度
サイレージ用	4～10 km/h
乾草用	6～15 km/h

注意

- ・ウインドローの草量が多い所は、作業速度を落としてください。
- ・PTOの回転速度は $540\text{min}^{-1}(\text{rpm})$ を標準としてください。
- ・PTOの入り切りは必ずエンジン回転を落としてから行ってください。
- ・グランドPTO等によるPTOの逆転は絶対に行わないでください。

※PTOを逆転させると機械が破損します。

◆ウインドロー拾い上げ走行のしかた

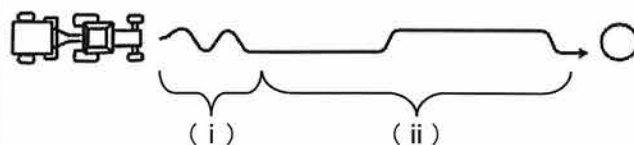
- ・  型で巾が120～140cmの場合、直進走行してください。

- ・  型で

- ①巾が120～140cmの場合は直進走行してください。
- ②巾が120cm以下90cm以上の場合、ウインドローの中心よりやや左側、そして右側となるよう交互に走行してください。
- ③ウインドローの巾が90cm以下の場合は、次の手順で作業を行ってください。

- (i) 機体中央から草を投入し始め、チャンバの左右に均等に草が入るようにすばやく蛇行を行います。
- (ii) 圧力ゲージの圧力が上がり始めたら、ウインドローを本機の右側、そして左側となるようにある程度長い区間(20m程度)を交互に走行してください。

①均一なバールになる



②均一なバールにならない



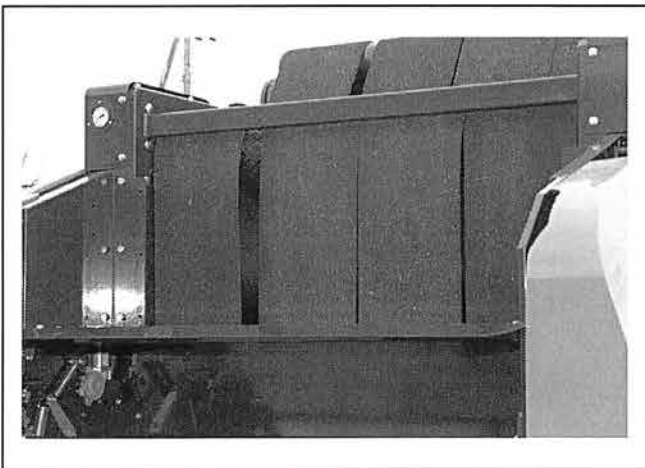
チャンバ内が空の時にはコントロールボックスのバール片寄りランプは消灯しています。作業が開始されチャンバ内に草が入り始めるとランプが点灯し、作られているバールに片寄りがあるとランプが消灯します。左側のランプが消灯した場合は左側に、右側のランプが消灯した場合は右側に草をいれるようトラクタを走行させてください。

作業方法

◆作業時のタイトベルトの状態確認

作業中に、写真のようにタイトベルトの位置が通常の位置からずれている場合は、ずれているタイトベルト側の草が少ないときです。

ずれているタイトベルト側へ草が入るように速やかにハンドル操作をおこない、草を投入してください。



注意

タイトベルトが裏返ったり、折れ曲がるなど極端にタイトベルトの位置がずれている場合は、すぐにPTOを止めてください。

安全な場所へ移動し、チャンバ内の草を放出して、タイトベルトの裏返りやずれを直して下さい。そのまま作業を続けるとベルトが破損します。

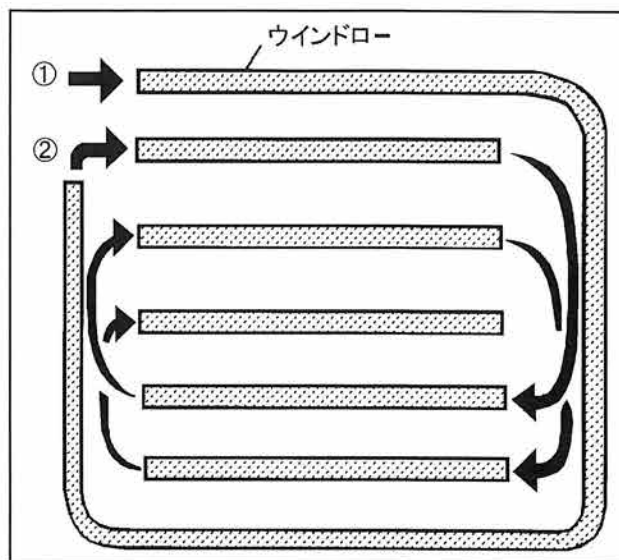
※タイトベルトのテンションの緩めかたは50ページを参照してください。

コントロールボックスの直径表示が80を超えていない状態での空走り時(枕地など)は、PTOを止めて走行してください。

(タイトベルトがひっくり返る等、タイトベルトの破損につながる恐れがあります)

◆旋回の際は大きく、急旋回はしない

旋回時はできるだけ大きく旋回し、急旋回は絶対に行わないでください。



注意

急旋回が必要な場合は、必ずPTOを切ってください。

※PTOを入れたまま旋回すると、特に直線距離の短いほ場では、拾い上げ時間より旋回時間が多くなり、ベールが必要以上に高密度となり放出ができなくなります。

チャンバに草が入っていない状態での運転を長時間行わないでください。タイトベルトの寿命が短くなります。

3.作業時のカッティングドラム部草詰り解除

◆ナイフホルダ開閉の方法

ナイフホルダ開閉の方法(34ページ)に従い草詰りを解除してください。

トラクタに乗ったまま草詰りを解除する事ができます。

⚠ 危険

トラクタから降りてピックアップドラム及びその周辺の草詰まりを取除くときは、必ずPTOを切りエンジンを停止してから行ってください。

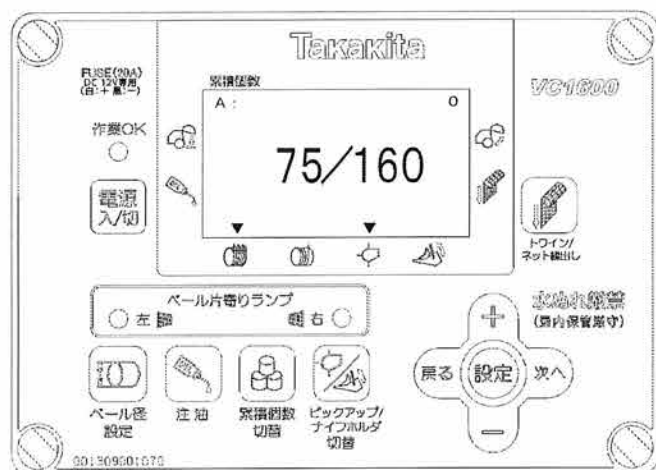
※ピックアップタインやカッティングドラムに巻き込まれ、重傷を負います。

作業方法

4. 作業時の結束手順とトラブル対応

◆ 結束の手順

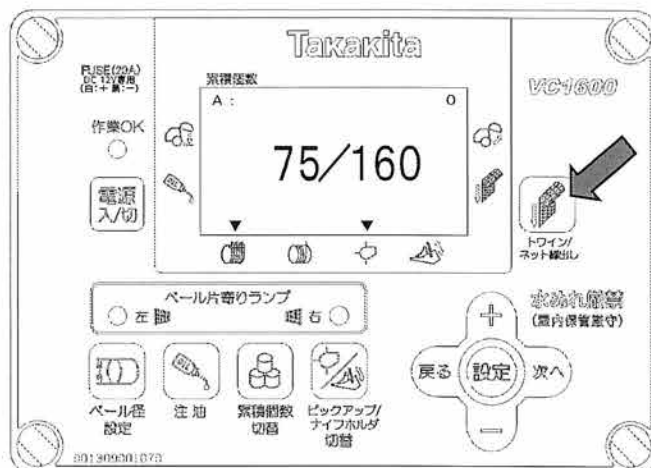
- (1) コントロールボックスの「作業OKランプ」の点灯を確認します。
牧草を拾い上げる前は、コントロールボックスの「ベール径」は75を表示しています。



- (2) 牧草を拾い上げていくと、コントロールボックスの「ベール径」の数値が増えていきます。
- (3) 設定した「ベール径」に近づくと（約90%）コントロールボックスから予鈴のブザーが「ピッ・ピッ・ピッ・・・」と鳴ります。
- (4) 設定した「ベール径」になると、コントロールボックスから本鈴のブザーが「ピーー」と鳴ります。直ちに走行を停止してください。
- (5) 自動的に「ネット」が繰り出され、結束が完了するとネットは自動的に切断されます。

◆ ネットがくい込まなかったときは

前項の(4)でネットがベールにくい込まなかったときは、PTOが回転している状態で、もう一度コントロールボックスの「ネット繰出し」ボタンを押して、ネットをくい込ませてください。



⚠ 危険

トラクタから降りてネット装置を確認するときは、必ずPTOを切りエンジン停止してから行ってください。

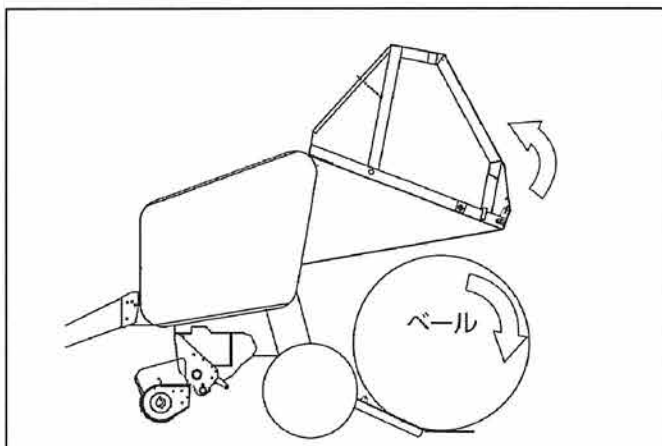
ピックアップドラムやカッティングドラム部に巻き込まれ、重傷を負います。

作業方法

5. ベールの放出

◆ベールを放出する(キッカー使用時)

結束が終わったら、トラクタの油圧レバーを操作してリヤチャンバを最大まで開け、ベールを放出します。ベールはキッカーの傾斜にて後方へ転がります。



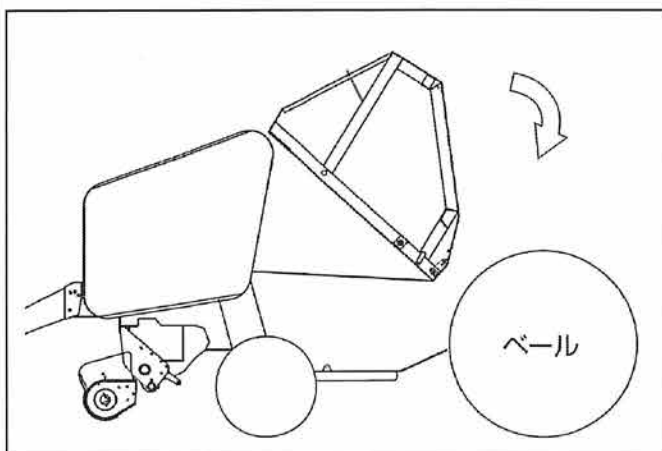
注意

5°以上の前下がり傾斜では、ベールがうまく後方へ転がらないことがあります。また、圃場の条件によっては5°以下でもベールが転がらない場合があります。うまく転がらない場合は、キッカーを取り外して作業を行ってください。

◆リヤチャンバを閉じる

ベール放出後、リヤチャンバを閉じるときは、コントロールボックスの「キッカーが降りています」表示が消えていることを確認し、油圧レバーを操作してリヤチャンバを閉じてください。

リヤチャンバが閉じて確実にロックされると、コントロールボックスの作業OKランプが点灯します。作業OKランプの点灯を確認後、次の作業に入ってください。

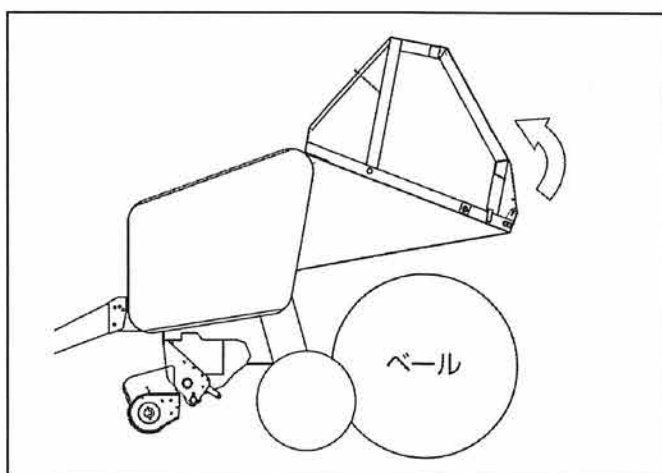


◆ベールを放出する(キッカー取外し時)

ベールの結束が行われている間に本機を5m程度後進させてください。

そうすることで結束したベールを放出後、次の牧草の拾い上げを最初からきっちりと開始できます。

結束が終わったら、トラクタの油圧レバーを操作してリヤチャンバを最大まで開け、ベールを放出します。

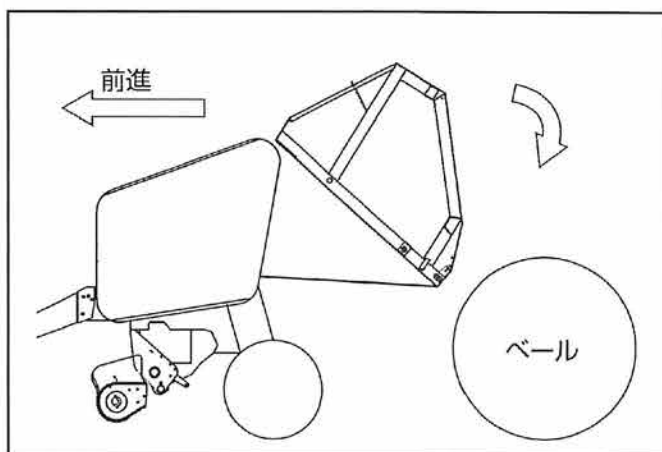


◆5m前進してからリヤチャンバを閉じる(キッカー取外し時)

ベール放出後、リヤチャンバを閉じるときは、放出したベールにリヤチャンバが当たらないよう、約5m前進してから閉じてください。

リヤチャンバが閉じて確実にロックされると、コントロールボックスの作業OKランプが点灯します。

作業OKランプの点灯を確認後、次の作業に入ってください。



作業方法

注意

- ・ペールを放出するときは、後方に人や動物がいないことを確認してください。
- ・傾斜地での放出は、ペールが転動しないよう、平坦な場所に放出してください。

6. 傾斜地での作業

◆必ず直角走行・急ハンドル禁止

斜面の等高線に対して直角方向に走行し、旋回は速度を落とし、急ハンドルは切らないでください。

※ペールを放出するときは、谷側にペールが移動して危険です。必ず平坦地に移動して安全な場所に放出してください。

警告

斜面の等高線に対して平行または斜め走行、急旋回は横転の危険がありますので決して行わないでください。

簡単な手入れと処置

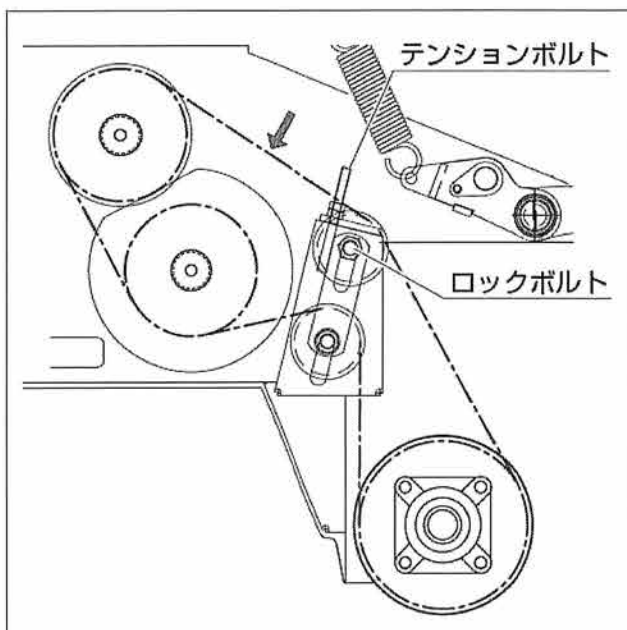
警告

- ① チェーンの張り調整や、各部の調整をするときはPTOを切り、エンジンを停止させて回転が止まってから行ってください。
- ② 取外したカバー類は、必ず取付けてください。
- ③ リヤチャンバを開け、内部の点検・修理・清掃を行うときは、必ずシリンダストップバルブを閉じて下降防止をしてください。
- ④ 作業前には、数分間PTO回転速度400～500min⁻¹ (rpm)で試運転を行ってください。
その後ボルト・ナットなどのゆるみ、チェーンの張り調整などの点検を行い、作業を開始してください。
- ⑤ 作業中、ワラ・牧草などを手や足で本機に入れることは絶対にやめてください。
- ⑥ 運転中は動力の伝達部・回転部に手足や衣服などを絶対に近付けないでください。

1.各部ローラチェーンの張り調整

(1)ボトムローラチェーン

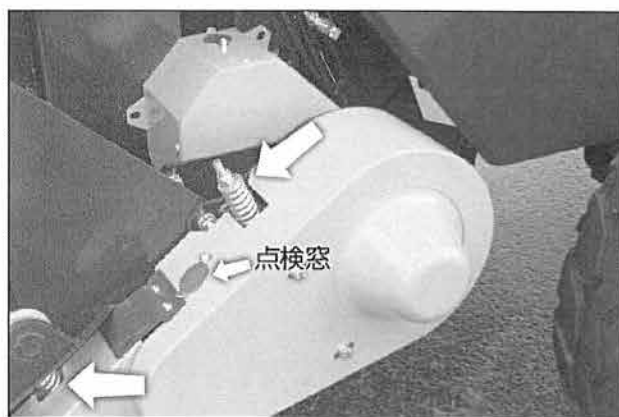
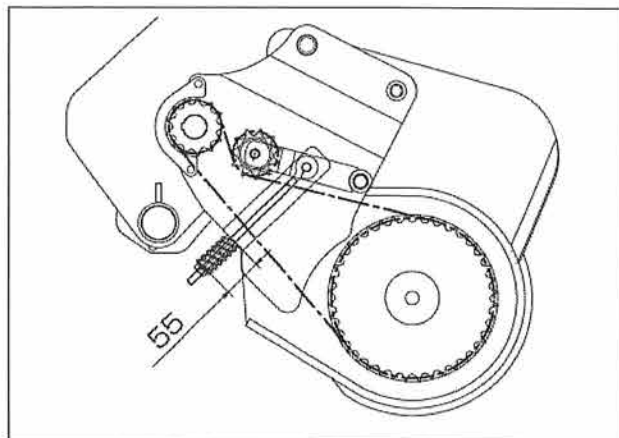
ロックボルトを緩め、テンションボルトで調整してください。矢印部分を指で押して8mmが標準です。



(2)ピックアップ駆動チェン(左右)

ナットを調整してバネ長さを55mm にしてください。

ワイドピック(左右)

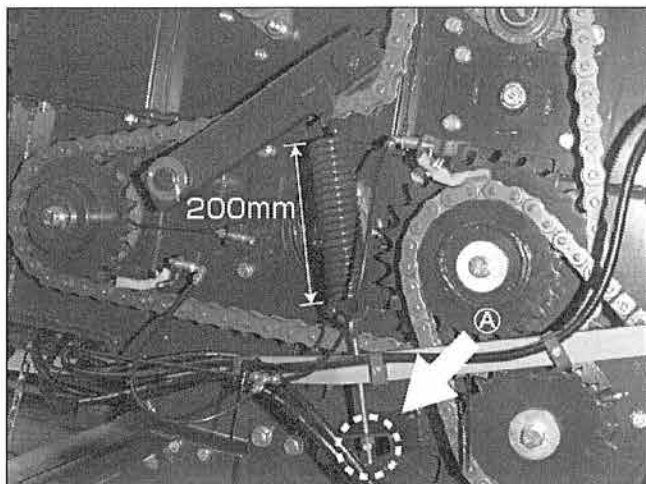


点検窓でチェーンを見てテンションボルトで張ってください。バネの長さの標準は55mm です。

簡単な手入れと処置

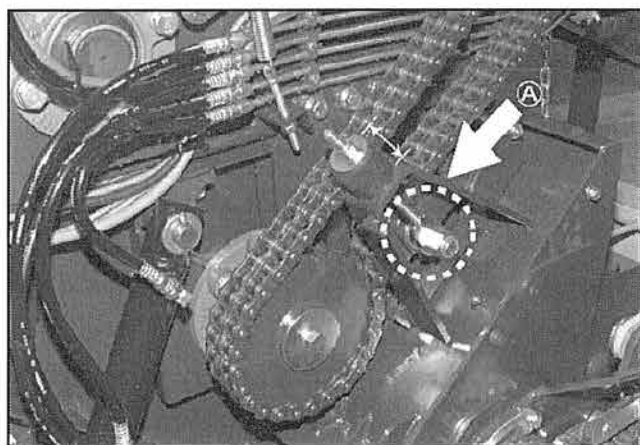
(3) タイトベルト駆動チェン

ロックナットを緩め、テンションボルトAで調製し、バネの長さを200mmにしてください。



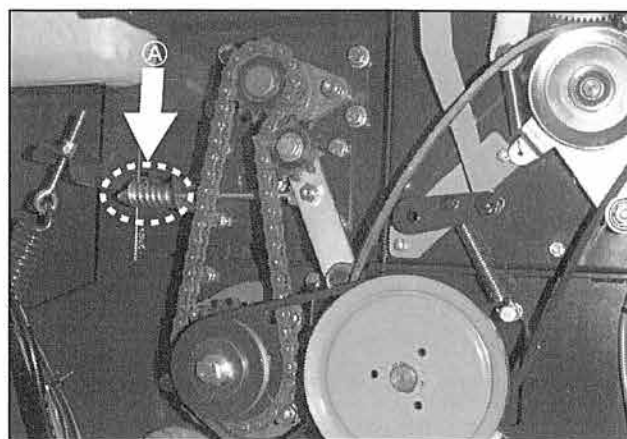
(4) ロータ駆動チェン

ナットAを調製し、ゴムの厚さが45mm 程度になるようにしてください。



(5) スクレーパーローラ駆動チェン

ロックナットを緩めテンションボルトAで調製し、バネの長さを55mm にしてください。

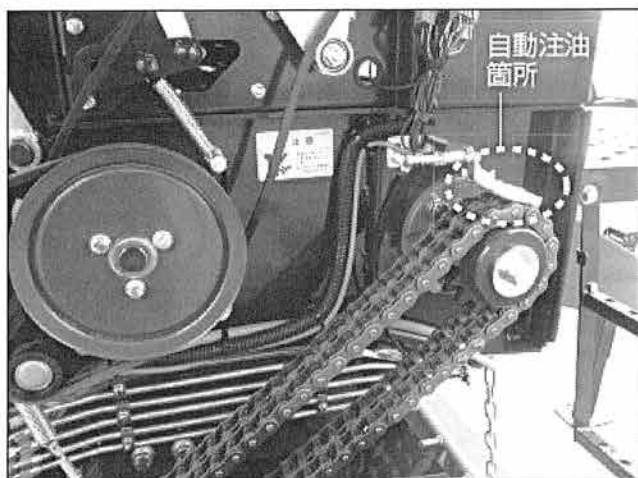
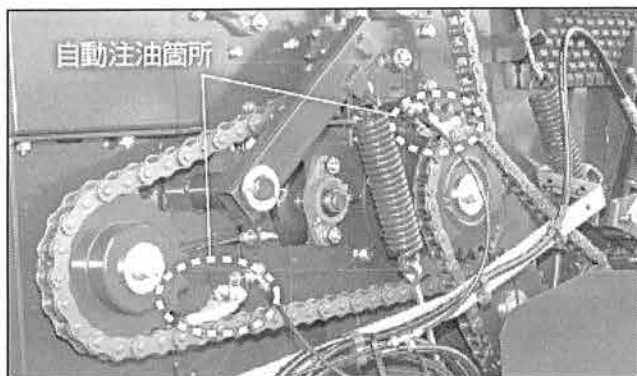


簡単な手入れと処置

2.自動注油

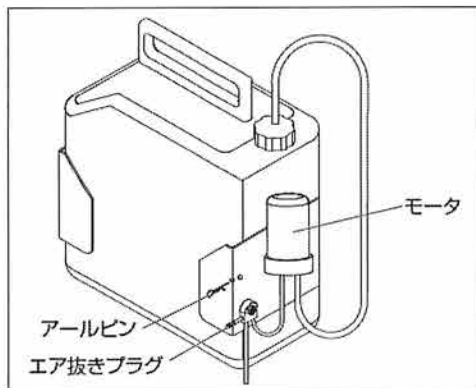
主要なチェンは電動により自動注油されます。「注油」ボタンを一度押すと設定秒間注油されます。

押し続けると押ししている間注油され、離してから設定秒間注油します。



(1) オイルタンクにオイルが入っているかを確認してください。オイルタンクのオイルが少ない場合は、オイルタンクの給油口を開け、規定量のオイルを補給してください。

(2) オイルタンクに約4ℓオイルを入れてください。オイルは油圧作動油「ISO VG32」を使用してください。

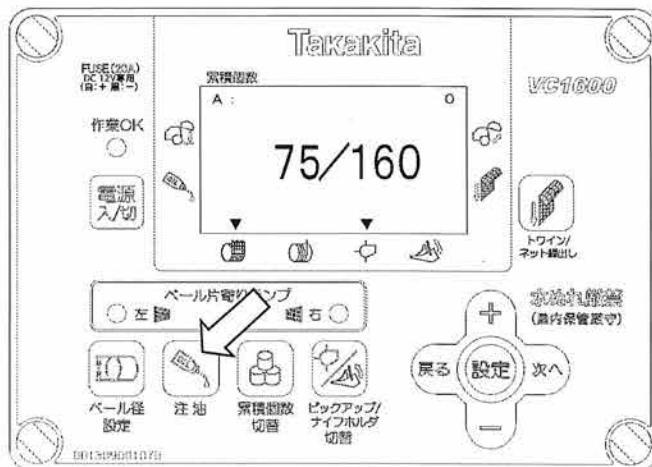


注意

- ・チャンバ内に材料が入っていない状態での空運転は、タイトベルトの寿命を縮めるため、行わないでください。空運転は必ずリヤチャンバを開放し行ってください。
- ・無給油で運転すると、オイルポンプ及びモータの故障につながりますので、絶対に行わないでください。
- ・粘度の高いオイルはモータの故障の原因になるので使用しないでください。
- ・注油前に注油ノズル先端のゴミを取除いてください。

(3) リヤチャンバを全開にして、トラクタのPTOを低速で回転させてください。

(4) コントロールボックスの注油ボタンを10秒程度押し続け注油してください。



(5) 注油が終わったらトラクタのPTOを止めてください。

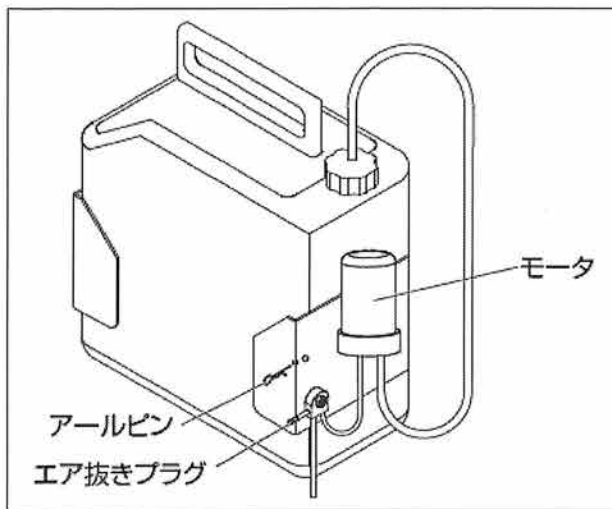
注意

- ・自動注油箇所以外のチェンにも必ず注油してください。
- ・注油タンク内のオイル残量には特に注意して、少なくなれば補給してください。
- ・オイルタンク内のオイルが完全になくなった場合は、エア抜きを行う必要があります。

簡単な手入れと処置

3. 自動注油装置のエア抜きのしかた

- (1) エア抜きプラグにオイルタンクの横にあるアールピンを入れます。



- (2) コントロールボックスの注油ボタンを押してください。
- (3) ノズルからオイルが勢いよく出てきたらエア抜き完了です。

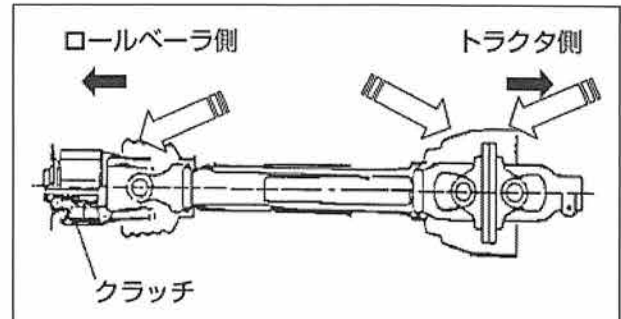
注意

- ・オイルが噴出しますのでノズルの正面に立たないでください。

5. グリースアップのしかた

◆ユニバーサルジョイント部

長期格納前または50時間ごとに、次の部位をグリースアップしてください。



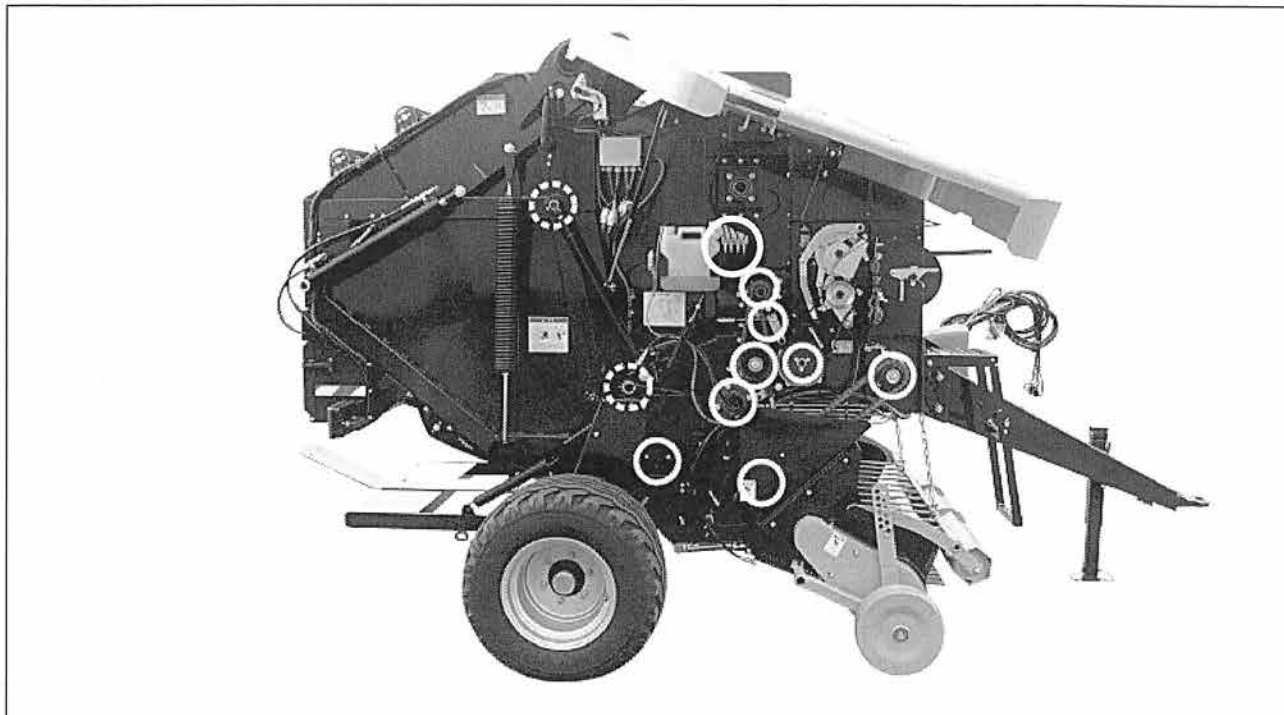
簡単な手入れと処置

6.チャンバ部のグリースアップ

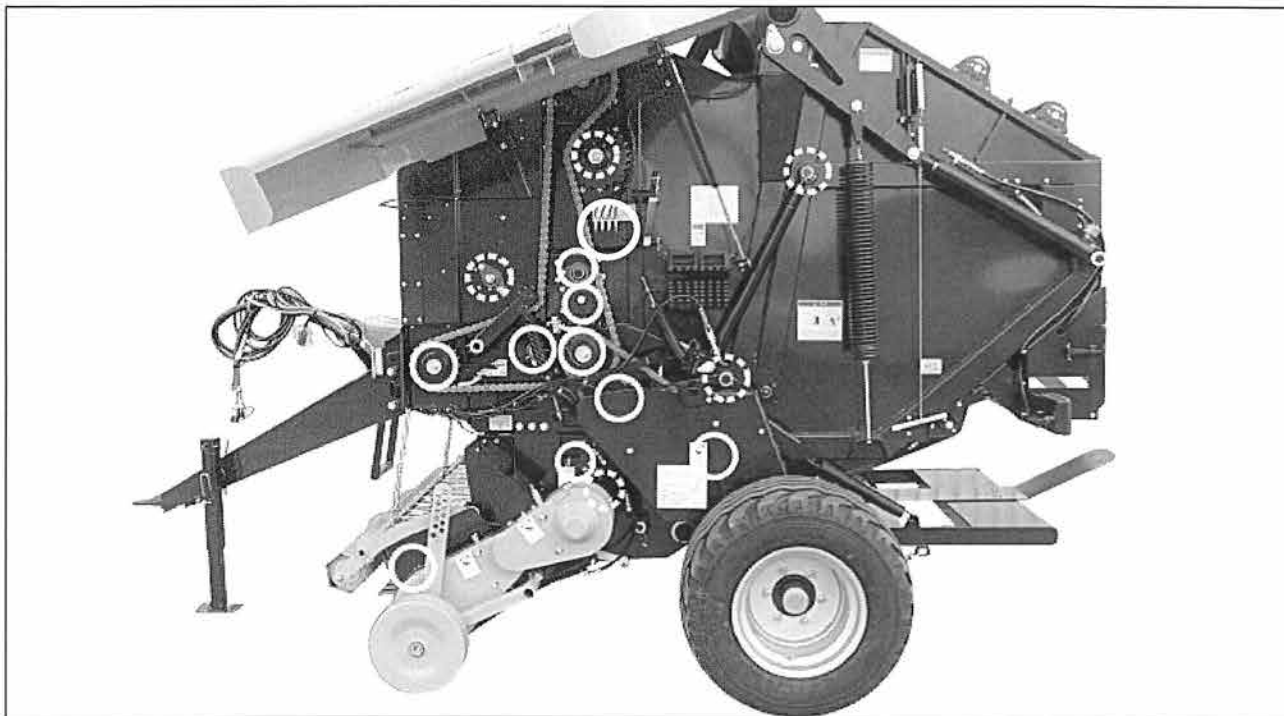
長期格納前または、指定時間毎に、次の部位にグリースアップしてください。

【右側】

○ 8 時間毎 ◎ 50 時間毎



【左側】



簡単な手入れと処置

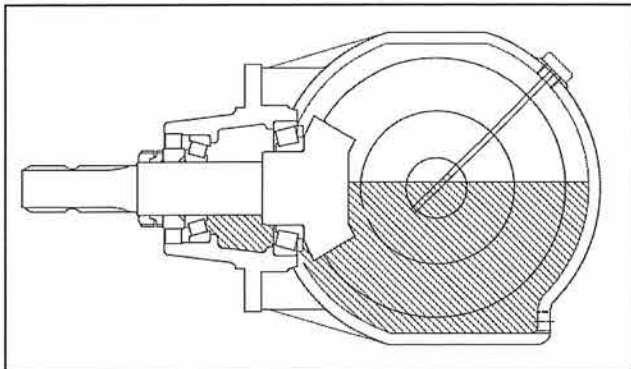
7. オイル交換のしかた

◆ミッションオイル

始動時から50時間で全量交換し、その後は1年に一度もしくは100時間ごとに全量を交換してください。

使用するオイルは、ギヤオイル #90

2.7リットルです。



！ 警告

オイル交換による廃油を、下水や土壤に捨てたり、焼却しないでください。

環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

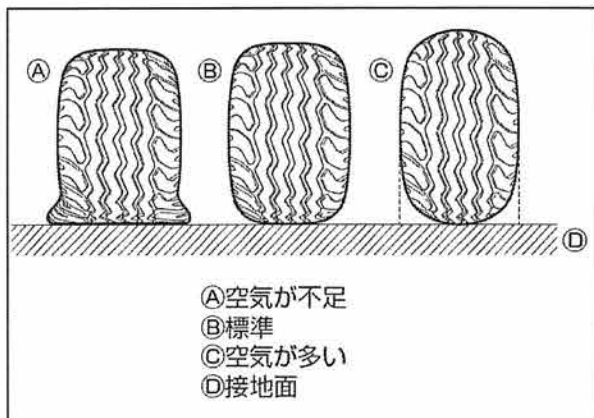
「お買い上げ先」または「産業廃棄物処理業者」に相談して、所定の規則に従って処理してください。

8. タイヤの空気圧の調整、及び磨耗、損傷

◆作業前にはタイヤの空気圧を確認してください。

本体タイヤ	タイヤサイズ 480/45-17 14PR (チューブレス)
	空気圧 250kPa(2.5kgf/cm ²)

外観からタイヤの空気圧を判断する目安は次の通りです。



！ 注意

・タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。

空気の入れ過ぎはタイヤ破損の恐れがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。

・タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は、使用しないでください。

タイヤ破損の恐れがあります。

・タイヤ・ホイールなどに関する交換・修理などは、十分な整備設備をもち、特別教育を受けた人がいるタイヤショップなどの専門店で依頼してください。

9. 車輪止め

駐車時は、必ず車輪止めでタイヤの歯止めをしてください。また、使用後はフレーム部へ格納してください。



！ 警告

本機をトラクタから切り離れたときも、必ず車輪止めで歯止めをしてください。

本機が動き、思わぬ事故の原因になります。

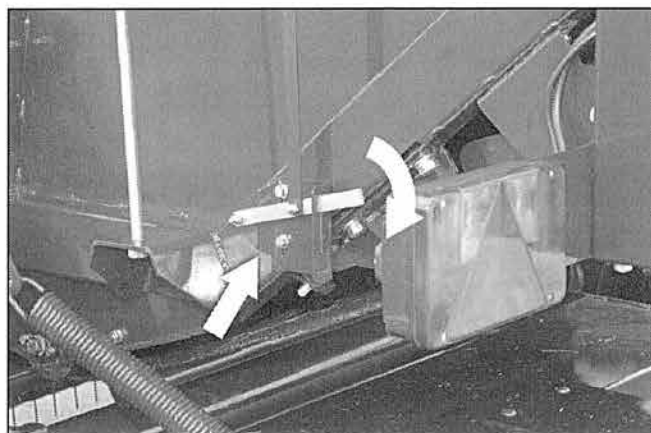
簡単な手入れと処置

10. タイトベルトテンションの緩めかた

点検・清掃を行うときや、タイトベルトのズレを修正するときは、下記手順でタイトベルトのテンションを緩めることができます。



(1) リヤチャンバを閉じ、写真のテンションアームストップレバーを下の位置にしてください。



(2) 油圧レバーを操作してリヤチャンバを全開まで開けてください。そうすると、テンションアームストップがでできます。

(3) 油圧レバーを操作して、リヤチャンバをゆっくりと半分程度閉じてください。そうすると、写真のようにタイトベルトが緩んだ状態になります。



(4) タイトベルトを元の状態に戻すには、テンションアームストップレバーを上位置に戻し、再びチャンバを全開にして、テンションアームストップをはずします。テンションアームストップが外れたらリヤチャンバを閉じてください。

注意

- 各ローラに草が巻きついている場合は、必ず取除いてから作業を行ってください。

草が巻き付いた状態での作業は、タイトベルトの横走りやタイトベルトがひっくり返る原因となります。

- タイトベルトを緩めた状態で、各アイドラローラが手で回してスムーズに回転する事を確認してから作業を行ってください。

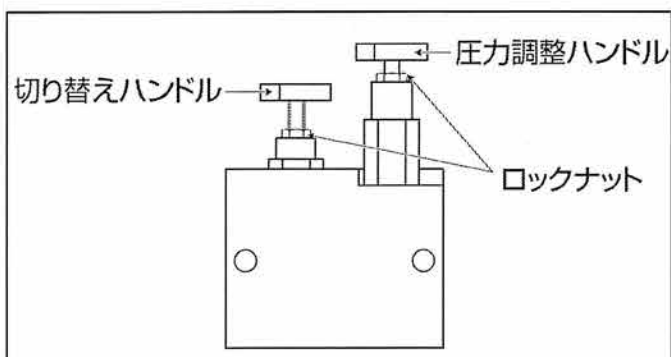
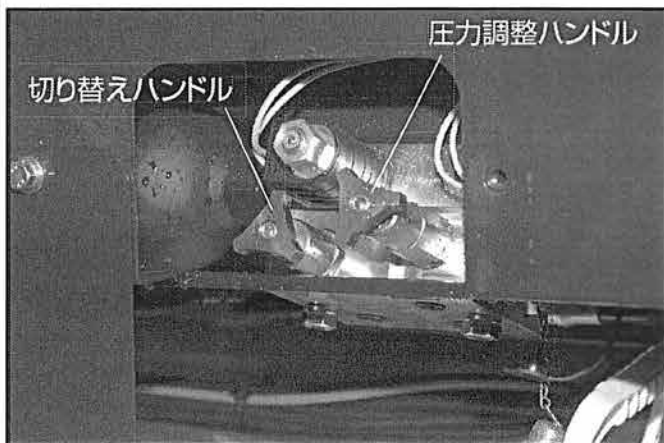
アイドラローラのベアリングが破損した状態で使用すると発熱し、火災につながります。

簡単な手入れと処置

11. ベール圧力制御バルブ操作

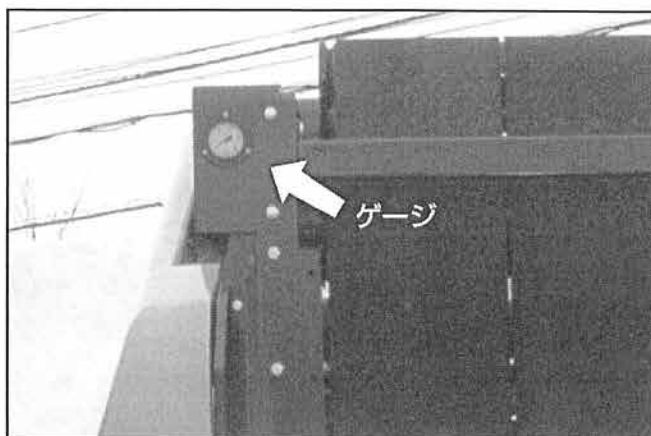
◆手動でのベール圧力調整方法

配線トラブルや、電磁圧力制御バルブにてトラブルが発生した場合、機体右後方の手動バルブにてベール圧力を設定することができます。



- (1) リヤチャンバを閉じて、圧力制御バルブカバーを外してください。
- (2) 切り替えハンドルのロックナットを緩め、時計回りにハンドルを一杯に締め込み、ロックナットを締めてください。
- (3) 圧力調整ハンドルのロックナットを緩め、反時計回りにハンドルを3回転程緩めてください。
- (4) リヤチャンバを全開にしても問題ないよう、工具を機体から下ろしてください。
- (5) トラクタのエンジンをかけ、外部油圧レバーを操作しリヤチャンバをゆっくりと開けてください。

- (6) 圧力ゲージが徐々に上がり、リヤチャンバが全開手前あたりで圧力ゲージの目盛りが4～6の範囲で、希望の圧力まで上がるかを確認してください。



- (7) リヤチャンバを閉じ、必要に応じて圧力調整ハンドルを調整してください。
 - ・圧力が低い: 時計回りに閉め込む
 - ・圧力が高い: 反時計回りに緩める再調整後、手順(5)(6)(7)を繰り返し希望の圧力に調整してください。

注意

手動でのベール圧力調整時は、リヤチャンバを開く際もタイトベルトにテンションがかかる為、設定圧を上げすぎるとリヤチャンバが開ききらなくなります。圧力ゲージの目盛りは、6以下で使用してください。

圧力調整後、リヤチャンバが全開できることを確認してください。全開できない場合は、圧力を落としてください。

- (8) 調整後、圧力調整ハンドルのロックナットを締め、圧力制御バルブカバーを取り付けてください。

再度、電磁圧力制御バルブにて作業をするときは、両ハンドルのロックナットを緩め、圧力調整ハンドルを時計回りに一杯に締め込み、切り替えハンドルを反時計回りに一杯に緩めて両ハンドルのロックナットを締めてください。

不調診断

不 調 内 容	診 断	処 置	参照 ページ
●ピックが上下しない	●油圧ホースの接続が間違っている ●カプラが合っていない ●カプラが確実に接続されていない ●トラクタの油圧レバーが間違っている	●細い方(2本)複動1系統 ●太い方(1本)単動1系統 ●細い方(1本)単動1系統 ●合ったものに交換 ●確実に接続する ●細い方(2本)の方のレバーを操作	27
●リアチャンバが上下しない	●油圧ホースの接続が間違っている ●カプラが合っていない ●カプラが確実に接続されていない ●トラクタの油圧レバーが間違っている ●シリンダストップバルブが「閉」になっている ●ナイフフリー、リヤチャンバ切替バルブがナイフフリーになっている	●細い方(2本)複動1系統 ●太い方(1本)単動1系統 ●細い方(1本)単動1系統 ●合ったものに交換 ●確実に接続する ●太い方(1本)の方のレバーをそうさ ●ストップバルブは両方「開」に ●切替バルブはリヤチャンバ側に	27
●ナイフホルダが開閉出来ない ●ナイフホルダが完全に閉らない	●トラクタの油圧レバーが間違っている ●開閉時に草がはさまっている可能性がある	●細い方(2本)複動1系統 ●ナイフホルダを閉じる時は草のはさまりが少ないよう、必ずPTOを回しながら行う ●詰まっている草を取り除く	27 34
●ナイフフリーシリンダが伸びない	●ナイフフリー油圧切替えが間違っている ●ナイフフリーシャフトの動きが渋くなっている	●ピックアップシリンダ部のナイフフリー油圧切替えバルブをナイフフリー側に切替える ●ナイフフリーシャフトとナイフベースの接触部に注油する	35

不調診断

不 調 内 容	診 断	処 置	参照 ページ
コントロールボックスの不調 ●電源ランプが点灯しない ●作業OKランプが点灯しない ●「カムが回転できません カムを確認してください」 のエラーが表示される ●「ネットを確認または交換 しネット繰出しスイッチを押 して下しさい」 のエラーが表示される	●ヒューズが切れている ●チャンバが開いている ●ナイフホルダが降りている ●キッカーの警告が出ている ●カムが初期位置にない ●カムが回転できない ●ネットがなくなっている ●ネットがチャンバ内に入らない	●ヒューズを交換する コントロールボックス 20A 電源コード(カプセル内) 30A ●白→⊕、黒→⊖に接続する ●チャンバを完全に閉め切る ●ナイフホルダを完全に上げる ●キッカーが降りていないか、キ ッカーを取り付けていない場 合はキッカー設定がOFFにな っているかを確認する ●コントロールボックスの電源を つけなおす(カムが初期位置 に回転する) ●ワイパーモータが故障してい ないか確認する ●新しいネットに交換する ●ネットがゴムローラ等に絡まっ ていないか確認する	11-23

不調診断

不 調 内 容	診 断	処 置	参照 ページ
●ジョイントクラッチが滑る	●ウインドローが大きすぎる ●作業速度が速い ●カッティングナイフが切れなくなっている ●ベール固さ設定が高い	●適正なウインドーを作る ●作業速度を落とす ●ナイフの研磨を行う ●カッティングナイフの枚数を減らす ●ベール固さ設定を下げる	21 37 39 54
●作物をきれいに拾い上げない	●ピックアップ高さの設定が高い ●走行速度が速すぎる ●タインが破損している	●ゲージホイールの高さ調整を行う ●走行速度を落とす ●タインを交換する	29
●ベールが固くならない	●ウインドロー幅が狭い ●ウインドロー拾い上げ走行の仕方が誤っている ●走行速度が速すぎる ●ベルトの張りが弱い	●120～140cmの均一なウインドローを作る ●ウインドローが狭い場合は、左右に均等に草が入るよう走行する ●走行速度を落とす ●ベール固さ設定を上げる	21 39
●タイトベルトがひっくり返る ●タイトベルトが横走りする	●ウインドロー拾い上げ走行の仕方が誤っている ●ローラに草が巻きついている	●ウインドローが狭い場合は、左右に均等に草が入るよう走行する ●巻きついている草を除去する	39 50
●ネットが広がらない ●ネットが破れたり、剥がれる	●ネットの通し方が間違っている ●ブレーキシューが減っている ●ブレーキが弱い ●ネットの巻数が少ない ●リヤチャンバが開く速度が遅い	●通し方を確認する ●ブレーキシューを交換する ●ブレーキバネが長くなるよう金具の穴位置を変更する ●ネット巻数を増やす ●約3秒でリヤチャンバが開ききるようトラクタの外部油圧流量を調整する	30
●注油オイルが出ない	●タンクとポンプの配管に空気が入っている ●オイルの番手が大きい ●注油モータが破損している	●エア抜きをする ●番手を32番にする ●注油モータを交換する	47
●ヒューズがよく切れる	●繰り出しギア部に異物やほこりがかみ込んでいる ●配線が破損している	●異物やほこりを除去する ●配線を交換する	

付表

1.主要諸元

品	名	可変径ロールベアラ
型	式	VC1620
装	着 方 法	ドローバけん引式
駆	動 方 法	PTO駆動(回転数 540min ⁻¹ (rpm))
適	応 ト ラ ク タ	58.8～99.3kw(80～135PS)
機 体 寸 法	全 長	4,640 mm
	全 幅	2,660 mm
	全 高	2,770 mm
質	量	3,310 kg
理	論 切 断 長	76mm
ベール寸法	径x幅	80cm～160cmx118cm
梱	包 方 法	ネットトワイン(O.P)
タ	イ ヤ サ イ ズ	480/45-17
作	業 速 度	4 ～ 15km/h

※この主要諸元は、改良により予告なく変更することがあります。

2.主な消耗品

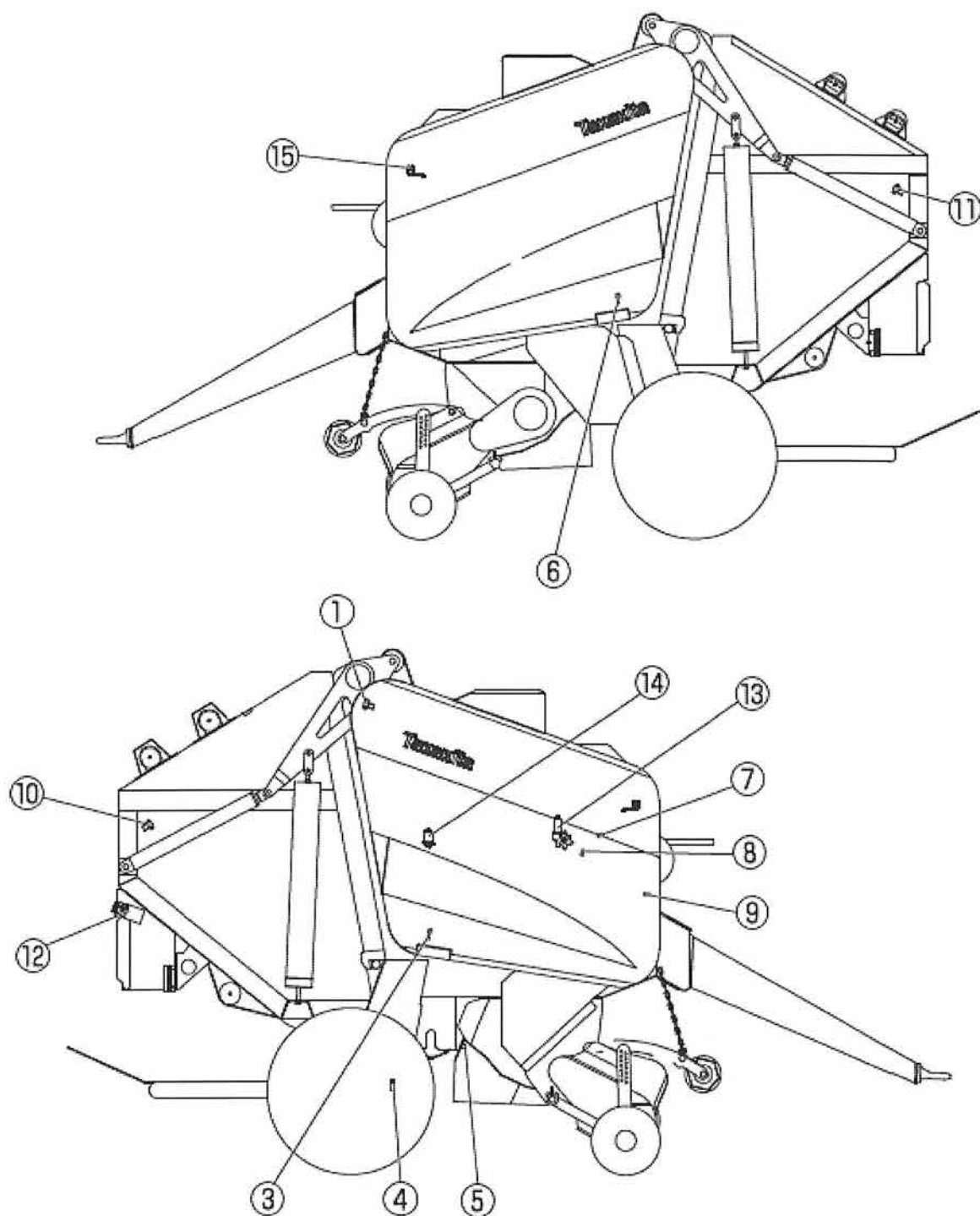
部 品 名 称	部 品 コード	サ イ ズ	員 数
ピックタイン	11405 5591 001	強化タイプ	48本/台

3.オイル

給 油 箇 所	使 用 オ イ ル	給 油 量
ミッション	ギヤオイル #90	2.7リットル
チェン部(オイルタンクに投入)	油圧作動油 ISO VG 32 相当	4リットル

付表

4.構成部品の位置(電装)



①ベールサイズセンサ

③チャンバ閉右センサ

④キッカーセンサ

⑤ボトムフロアセンサ

⑥チャンバ閉左センサ

⑦カム2センサ

⑧カム1センサ

⑨カウントセンサ

⑩ベールサイズ右センサ

⑪ベールサイズ左センサ

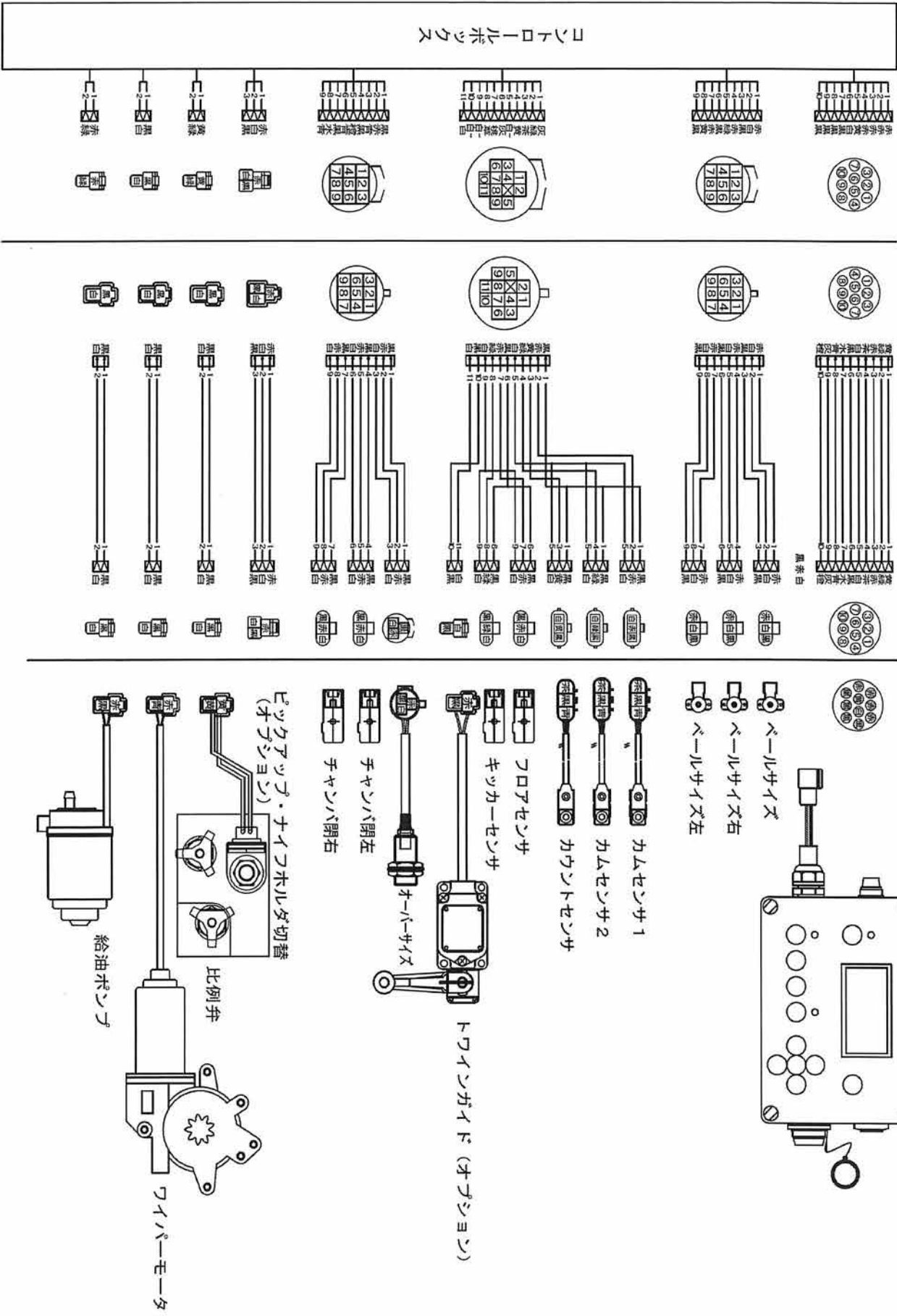
⑫圧力調整バルブ

⑬ワイパーモータ

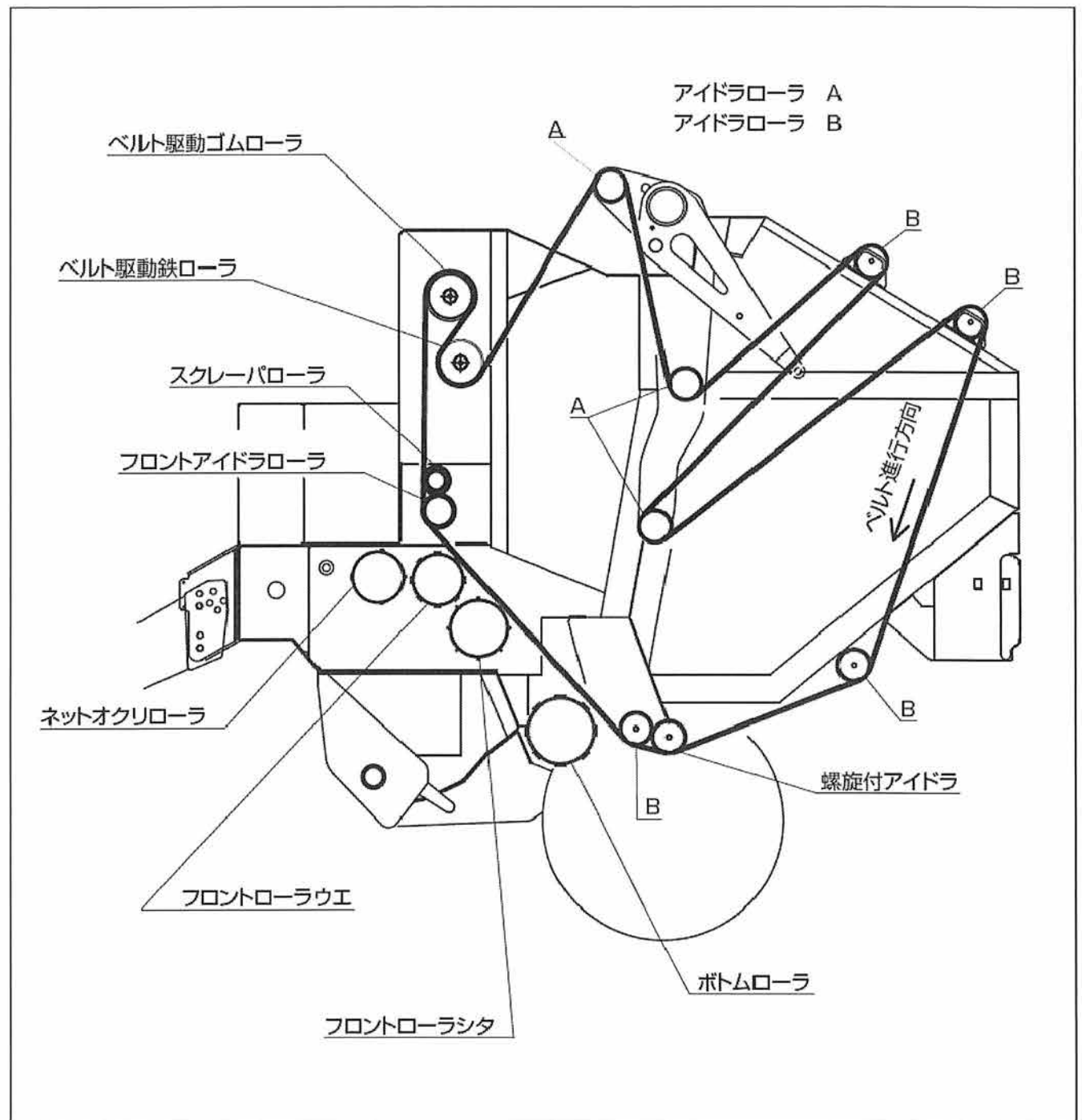
⑭注油ポンプ

⑮トワインガイドセンサ

5.配線図



6.ローラの配置とタイトベルトの通し方



7.油圧回路図

